



広島市東区の上温品、温品岡地区でホタル放流や川の清掃に取り組んできた活動が実



(府中大川)で幼虫の餌となるカワニナの放流や川の清掃に取り組んできた活動が実

（府中大川）で幼虫の餌となるカワニナの放流や川の清掃に取り組んできた活動が実

（府中大川）で幼虫の餌となるカワニナの放流や川の清掃に取り組んできた活動が実

## 温品川 04年からカワニナ放流

を結んだ。住民たちは喜ぶ。

「ホタルの里の復活。一方、下流の温品地区のシンボルにしてみたい」と意気込んでい

る。

上温品地区の鮎信橋下流約200㍍。今月

中旬の午後8時半すぎ、辺りが暗くなると黄色い光が明滅した。ゲンジボタルが放つ光跡だ。

「5年前は乱舞していたと聞き、何とか復活させたかった」と千葉太玄さん(79)。2004年から毎年約1万匹のカワニナを放流してきた。05年から数匹

が姿を見せ始め、5年前からは数が増え、こ

としは多い時で約50匹が舞つたという。

生活排水で汚れていた温品川。下水道整備で水質が改善したことでもホタル復活の要因といふ。一緒に放流してきた小方重明さん(73)は「川がきれいになっている証拠。豊かな自然が戻りうれしい」と

同会の中谷正憲会長(70)は「温品地区的シンボルとして大切に守り、地域おこしになげていきたい」と話している。

(河合佑樹)